
Messenger ~ メッセージャー ~

泉 ユキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Messenger（メッセンジャー）

【Nコード】

N9165G

【作者名】

泉 ユキ

【あらすじ】

天国からメッセージを運んで来る、ソラノウタ空野唄という少女を中心とし、「死」を主とした物語。

プロローグ（前書き）

こんにちは、泉ユキです。

今回は初の切ない系の物語に挑戦します。

ちよっとどうなるかアヤしいですが、
読んでいただけたら嬉しいです。

プロローグ

「お姉さん、それ何のウタ？」

「私の事が見えるのね？」

「うん。」

「このウタはあなたの唄。天国からのMessage。」

「お姉さんは、誰なの？」

「私の名前は空野唄。天国から来たMessenger。」

「めっせんじゃー？」

「きつといつかあなたが、また涙をこぼした時、私は訪れる。」

「お姉さん…:?」

「さようならまた逢う日まで。」

これは私の止まった時間を動かすための物語……

第1話：初めて奴（アイツ）に会ったのは（前書き）

こんにちは泉ユキです

一話始まりました！

まえがきを書くとき、必ずと言っていいほどネタばれしてしまうので、あまり書かないうちに内容へどうぞ。

ではあとがきで。

第1話：初めて奴（アイツ）に会ったのは

季節は初春。

高校受験が終わり、特にすることがなくなった俺は家の近くの公園のブランコで少したそがれた気分になっていた。

「ああ、つまらん」

俺の名前は秋本隼人。アキモトハヤト

三歳の時母親が事故で亡くなった。

五歳の時父親が病気で亡くなった。

残ったのは、父の残した貯金しめて1000万円。

物心ついた時に両親を亡くした俺は親友の家が引きつとってくれた幼稚園で大のつくほど仲のよかった吉沢潤のいえだ。ヨシザワジュン

だがついさつき、うっかり聞いてしまった。

潤の両親の言葉を。

「あんなこ引き取るんじゃなかったわ。」

「そうだな……。家ウチだけでも大変なのに。」

信じていた。でも裏切られた。

心に深い深い傷を負い、俺はその家を出た。

置手紙にはこう書いた。

「今までありがとうございました。」

これからは両親のためた金で生きていきます。

心配しないでください。

本当にありがとうございました。」と。

そして最初の場面に戻るわけだ。

今までは秋原の家が養ってくれていたから、1000万は手つかずで、俺の手元に残っている。

これだけあればしばらくは生きていけるだろう。

とりあえず持つてきた着替えや本、勉強道具などを置くスペースが必要だ。

とにかく物件を借りようと、近くにあった不動産屋によってみる。
「どんな物件をお探しですか？」

まだ子供の俺に驚きつつ、作り笑いを浮かべた定員が寄って来る。
「…。とりあえず、家具付きできれいでできるだけ安いところ。あ、あと都立の北条高校に近いとベスト。」

「か、かしこまりましたあ…。」と言って店内に消える。

「明らかに引いてたな…。」
なんて呟いてみる。

しばらくするとさっきの定員がもっどって来た。

「こちらなんてどうでしょう！」

そう言いながら持ってきた書類を俺にわたす。

「どれどれ…？…。月50万?!高ッ!!!!!!」

そういうと店員は首を傾げてこういった。

「何をおっしゃっておられるのですか?こちらは50万であなたの
ものです。」

あれ…?おれ賃貸でいいって言わなかったっけって…

「安ッ!!!」

「はい。家具付きで高校も近く、駅も歩いて10分！」

こんなに安いってことはたぶん…

「なんかのいわくつきとかですか？」

そういうと手人は顔をひきつらせて、少しうつむく。

「はい…、実は…。」

「幽霊オバケでも出るっていうんですか？」

「いえ、天からの使い、と名乗る少女が住み着いてまして…。
天使と名乗る少女?なんだそりゃ。」

だが、少し興味がわいてきた。

「その家、買った。」

「!!!…いいんですか…?」

別にいいさ。50万くらい。

こっちにはあと950万あるんだ。バイトしてでも生きてやるぞ。

そしてその場で50万支払い、書類にハンコを押す。

「こちらが書類です……。」

そして俺は渡された書類をもとに、新しい家へと歩き出した。

「ここか…写真で見たのよりもでけーな……。」

俺は家というよりも豪邸といったかんじの新家の前にいた。

「入ってみるか。」

ギイイイイ

と重い扉の音がある。本当にきれいなんだろうか、という疑問が湧いた。

が、すぐに消えた。中はピカピカで、今の今まで人がいたかのようだ。

家具も全て揃っていたし、電気もガスも水道も通っていた。

これで50万は安い。

見ただけでも3階まであり、普通の部屋は10部屋、寝室が10部屋、

風呂は2階と3階にひとつずつ、キッチンが2階で、食堂が2階。

トイレは各階に2つずつ。1階は客間やホールなどになっていた。

「トイレこんなにいらねーだろ……。」

呟いてみるが、誰もいない。

そういえばあの家にいる時はこんな風に一人になることなんてなかった。

急にふつとさみしくなったらしい。

(なんか……目頭がアツイ……ッ！)

涙を振り払うように近くにあったタンスを開ける。

ガタガタッ

「……?!」

重要な事の気がするのに全然思い出せない…
ずっとずっと昔の事な気がする。

遠い記憶を手探りで探す、だが見つからない。

絶対知ってるはずなのに！

「大丈夫？！ねえ聞こえてる？！」

「（はあ…はあ…）え…？ああ…うん…。」

「ほんとに大丈夫？秋本君！」

え…？何で俺の名前…？

「秋本隼人君でしょ？？だから最初に言ったじゃない私は天国から
来たって」

私は、天国から来た メッセンジャー Messenger なの！」

「メッセンジャー…ね…。」

頭が足りてねえってわけじゃあないだろう。

じゃあこいつはマジで天国から来たってのかよ

ギイイイ

扉の開く音がする。こんな時間に不法侵入か？？もうすぐ午後8時
になるぞ。

「さあ！探すわよ　　！！」

「誰…？」

入ってきたのは同い年くらいの子女子だった。

「ええ！あんたこそ誰よツ！」

「誰って…今日からこの家主だけ…？」

すると物おじする風もなく、奴は言い放った。

「へえ、趣味が合うじゃない！私はここに探検に来たのよ！」

いきなり不法侵入してきた女子に、謝られる前に探検しに来たって
言われても…

「あんた、名前は？」

「秋本隼人」

「へえ、隼人ねっ。私は ハラダリン 原田鈴！」

てかなんで家なんか探検しに来るんだよ…

「それは最近この家に幽霊少女が出るらしいのよ!」

あの、唄ってやつの事が…?

「あ、それよりね!聞いてっ?!私は明日入学式の、都立北条高校に行くんだけど、

そこにはオカルト部がないの!許せないと思わない?!」

まったく思わん…てか同じ高校かよっ(泣

「え…?あんたも同じ高校なの?へえ。じゃ頭いいんだ。あそこ結構上LVの学校なのにねえ…」

それはお前も同じ事だろうが。

「じゃあ部員が一人で来たわね!」

「え…?部員…だと…?!」

「部活を作るならあと3人は必要ね…!」

はあ…?さっきからこいつは何言ってる…

「じゃ、今日からここがオカルト部の本部よ!よろしくね、隼人!

あ、それと、私の事は、部長か鈴って呼んでね! じゃね

ッ!

そう言い残して奴は帰って行った。

「なんだっただ…?今のは…。」

「ねえ、もう行った?」

隠れてたのか…?

「あの人には近づいてはいけないオーラが出てます!」

は…?確かに危ないやつだったか…

「…?」

美少女だった。あれはすげー美少女だった。

この唄ってやつも、ギャップが麗しの美少女だが、

あいつはポニーテールにした長い髪が強烈に可愛かった…。

「もう!これだから男の人は!」

胸もでかかったなあ…

「ちよつと!隼人くんッ!聞いてます ?!」

なぜか少し浮かれていた俺には、

歌の名前の呼び方が秋本君から隼人君になっているのに気付かない
のでした。

第1話：初めて奴（アイツ）に会ったのは（後書き）

一話終わりました！

読んでいただけで光栄です！

長文はパソコンで打つのが大変でしたが、

皆さんに楽しんでいただけたら…

という思いで必死に打たせていただきました。

これからも読んでいただけたら嬉しいです！

あ、それと、感想などが書いてあると、

作者が喜びますので書いてやってください…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9165g/>

Messenger ~ メッセンジャー ~

2010年11月25日02時26分発行